

# 活動経緯

【第1回】2021年2月13日（土）13時～16時 オンライン

(目的)

- ・プロジェクト会議の目的や将来設定、市民と行政の役割分担を共有する
- ・ワークショップ提案事業などを基に市が作成した事業の枠組み案についての意見をもらう

(内容)

- ・枠組み案について共有と意見出し

<枠組み案>

- 1 弥富の特徴を反映した地域に根差した仕事をつくる
- 2 子育てしやすい／暮らしやすいまち・弥富をPRする

(次回に向けた課題)

- ・参加者同士もオンラインでの話し合いしかしていないため、オンライン特有の空気感から本音での話し合いが困難な状況がある。そのため、メンバーそれぞれの想いや人となりを共有する必要がある
- ・ワークショップ提案事業のどの部分を枠組み案に採用して組み立てたのか、また、この枠組み案を組み立てるにあたっての課題の定義づけについて、丁寧に説明をする必要がある

(会議の様子)



【第2回】2021年3月13日（土）15時～18時 市役所6階展望休憩スペース

(目的)

- ・メンバー間のより良い関係性づくりを行う
- ・今後のスケジュールをもとに最終ゴールの確認をする

(内容)

- ・この取り組みを通じて「達成したいこと」の共有
- ・会議で話し合われた情報の扱い方（SNS等での発信なども含む）についての意見交換

<達成したいこと>



(次回に向けた課題)

- ・お互いの人となりを理解し合い、良い関係性づくりを継続して行う
- ・ソーシャルメディアガイドラインを作成し、情報発信のルールを決める

(会議の様子)



【第3回】2021年4月17日（土）13時～16時 市役所6階展望休憩スペース（一部オンライン）

（目的）

- ・ワークショップ提案の4事業と、市が作成した事業の枠組み2案から課題を選定し、事業内容に係る柱とその効果を検討する

（内容）

- ・ワークショップ提案事業などに関する市の課題の共有と意見出し
- ・取り扱う課題の選定
- ・ソーシャルメディアガイドラインの決定

<課題に関する資料> ※一部抜粋

事業名	「林さん、金魚養殖をはじめるとってよ」プロジェクト～仕事の悩みを解決するためのカフェ運営
事業内容	若者や高齢者など市民全体で地域課題を共有し、その解決に向けた取組をプロジェクト化するための情報共有、検討の場として「お仕事カフェ」を設置し、地域の新たな雇用創出や担い手の確保・育成を行う。
想定される課題	市内の働く場が不足している（若者や女性、リタイア後の高齢者などにとって魅力的なもの） 市内の仕事、産業に関する情報が不足している（ハローワークがない） 市内での就業者が少ない（名古屋市ベッドタウン、雇員人口が少ない：市街地） 起業・創業の風土がない 市民が気軽に交流できる場所がない、市の賑わいが少ない 若い人（10～20歳代）にとって、経験値が積める、思いっきり失敗してもいい場所・機会がない
根拠データ（一部抜粋）	【従業者（市民に問わず市内で働く人）】 ●従業者の総人口に対する比率（2014年） ●弥富市54.6% 一海南病院・港湾部を除くと43.4% 愛知県53.2%、津島市47.4%、愛西市30.3%、蟹江町37.5% 総人口に対する比率は、県平均を上回っていますが、海南病院・港湾部を除くと、県平均を下回るため、海南病院・港湾部により押し上げられていることがうかがえます。  【就業者（市内外問わず働いている市民）】 ●就業者の総人口に対する比率（2015年） ●弥富市51.4% 一海南病院・港湾部を除くと47.3% 愛知県49.0%、津島市48.9%、愛西市50.3%、蟹江町51.5% 総人口に対する比率は、県平均を上回っていますが、海南病院・港湾部を除くと、県平均、近隣自治体を下回るため、海南病院・港湾部により押し上げられていることがうかがえます。  【昼夜間人口比率】 弥富市97.3%（2015年）一海南病院・港湾部による増を除くと90.8%（推定） 愛知県101.4%、津島市94.5%、愛西市79.1%、蟹江町79.5% 昼夜間人口比率は、近隣自治体よりは高いですが、海南病院・港湾部による増を除くと、愛西市、蟹江町よりは高く、津島市より低い比率になります。

事業名	シビックプライドアップ弥富～やるじゃん！弥富～
事業内容	市民の本市に対する誇りや愛着を深めるとともに、市外へ本市の魅力を知ってもらうため、「やるじゃん！弥富」をテーマに効果的な情報発信や交流事業を行う。  （シビックプライドとは、「地元に対して貢献したい」という気持ちそのものです。概念としては、「地域をより良い場所にするために、自分自身が関わっている」という当事者意識や自負心を指します。「郷土愛」との違いは、「自分自身が生まれ育った場所」に愛着を抱くのが郷土愛で、シビックプライドは移住者のそれも含まれる。要は、シビックプライドには「地域を育み、そのために行動する」といった意味が含まれるので、一歩進んで主体的に関わる行動を指します。）
想定される課題	弥富市には市民が誇りに思えるものが少ない 市民が集い、交流できる場・機会が少ない 特に若者向けの交流の場・機会が少ない 弥富市の情報（特色、魅力など）が市民に行き届いていない 住民が主体となってという取組が少ない 自治会活動が窮屈（封建的）
根拠データ（一部抜粋）	【小売店数】 人口千人あたりの小売店数 弥富市6.7（2016年） 愛知県6.9、津島市8.9、愛西市4.8、蟹江町7.3 人口千人あたりの小売店数は、愛知県平均よりやや少なく、津島市や蟹江町を下回っています。  【飲食店数】 人口千人あたりの飲食店数 弥富市3.4（2016年） 愛知県4.8、津島市4.6、愛西市2.7、蟹江町5.4 人口千人あたりの飲食店数は、愛知県平均より少なく、津島市や蟹江町を下回っています。  【弥富市総合戦略推進会議委員からの意見】 地域のコミュニティがだんだんなくなってきている。地域の人が共通のテーマを持ちやすいイベント、お祭りを設けるのがコミュニティの活性化につながるのではないか。ある程度幅のあるイベントをやって、知らない者同士でも触れ合う機会をつくるのが新しい繋がりができていくのではないかと。

- ・出された意見をまとめた事業の方向性は以下の通り（後日、参加者と合意した）

- ・案1のお仕事カフェ事業を主として、空いた時間にできる副業などのプチ仕事支援、子育て支援、防災啓発、コミュニティづくりなど、様々な交流をもたらす「場をつくる」
- ・場所の候補地は、図書館棟2階市民協働スペース、十四山総合福祉センター、空き家

（次回に向けた課題）

- ・事業の方向性が決まったが、具体的な内容が決まっていないため、メンバーに次回までに具体的な事業内容を各自、検討してもらう

【第4回】2021年5月15日（土）13時～16時 オンライン

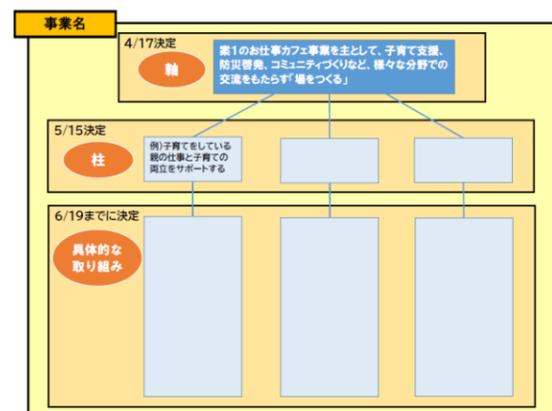
（目的）

- ・事業内容の具体化と大まかな事業内容を決定する

（内容）

- ・前回の方向性を踏まえて、各自、事業案を持ち寄ってもらった
- ・持ち寄ってもらったものから選ぶ、というより、いろいろな意見を組み合わせるような形になった

<事業の組立イメージ>



<場について>

- ・事業の形は「コミュニティカフェ」
- ・コンテンツは、仕事やスキルなどの情報発信、物販、相談できて行政とつながれる場所など
- ・行政とタッグを組み、行政が取りこぼしていたところやグレーゾーンを埋めるような存在

（次回に向けた課題）

- ・「誰がやるか」、「どこでやるか」を決めなければ内容は決まらない
- ・メンバーの事業への関わり方は多種多様であり、統一的な関わり方を示す必要はない
- ・市が想定していた関わり方より、ライトにする必要がある

（会議の様子）



【第5回】2021年6月19日（土）13時～16時 オンライン

(目的)

- ・市が作成した事業のたたき台を整理する

(内容)

<たたき台>

- ・α拠点：図書館棟2階に作られる市民活動スペースを利用して、各種体験イベントやセミナーなどの実施もできる情報発信拠点とする（最初は市が実施主体、将来的にはNPOなどの任意団体が運営）
- ・図書館棟3階には、子どもも預けられるテレワークスペースを併設する
- ・β拠点：空き家を利用して、テレワークスペースや子どもの遊ぶ場所、高齢者の憩いの場所を整備（実施主体はNPOを想定）
- ・この2つの拠点が相互に情報を連携させることで、情報発信を強化する



<改善点>

- ・β拠点は市内に複数あり、得意な分野を活かした活動をしてもらう
- ・α拠点はβ拠点同士やα拠点とβ拠点をつなぐハブのようなもの
- ・「そもそも何のため」。ゴール設定や意義を考え直す必要がある
- ・「ニーズ把握」。ワークスペースなど、そもそも必要とされているのか。事業をやる上でマーケティングやターゲティングは必要
- ・「オンリーワンをどう発揮するか」。新しい市民活動スペースが新しい価値をどう市民の方に提供できるかが重要になる

(次回に向けた課題)

- ・市民ニーズ把握のためにプレ事業を実施する
- ・事業案はまとまりつつあるものの、YTM.Meetingとして、どのタイミングでどんな関わり方をするのかは未定

【第6回】2021年7月17日（土）13時～16時 市役所6階展望休憩スペース

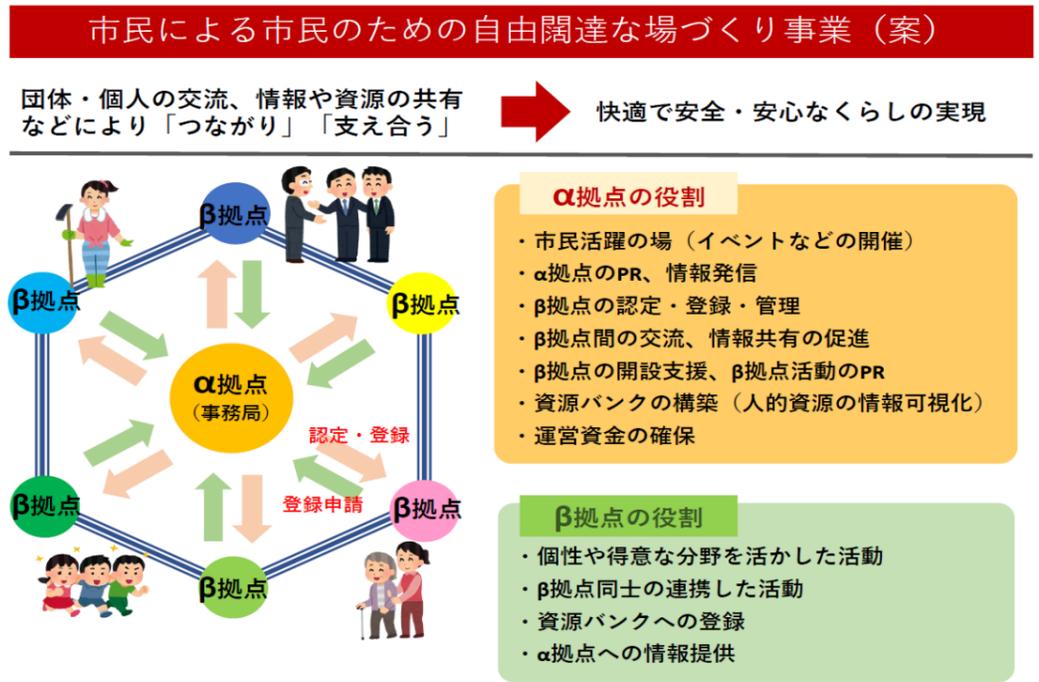
(目的)

- ・事業内容を確認し、事業スケジュールと事業への関わり方を整理する

(内容)

<たたき台の修正ポイント>（参加者合意）

- ・何かの分野に特化して事業を展開するわけではなく、α⇔βの仕組みを弥富市の市民協働によるまちづくりの基盤とし、市民の暮らしやすさを高める事業に修正
- ・この事業を行うことによる効果やゴールがわかりづらかったため、将来像を設定
- ・「こんなことができます」⇔「こんなことができる人探してます」、「こんな場所あります」⇔「こんな場所探します」など、人・物・場所のマッチングができる仕組みを作る

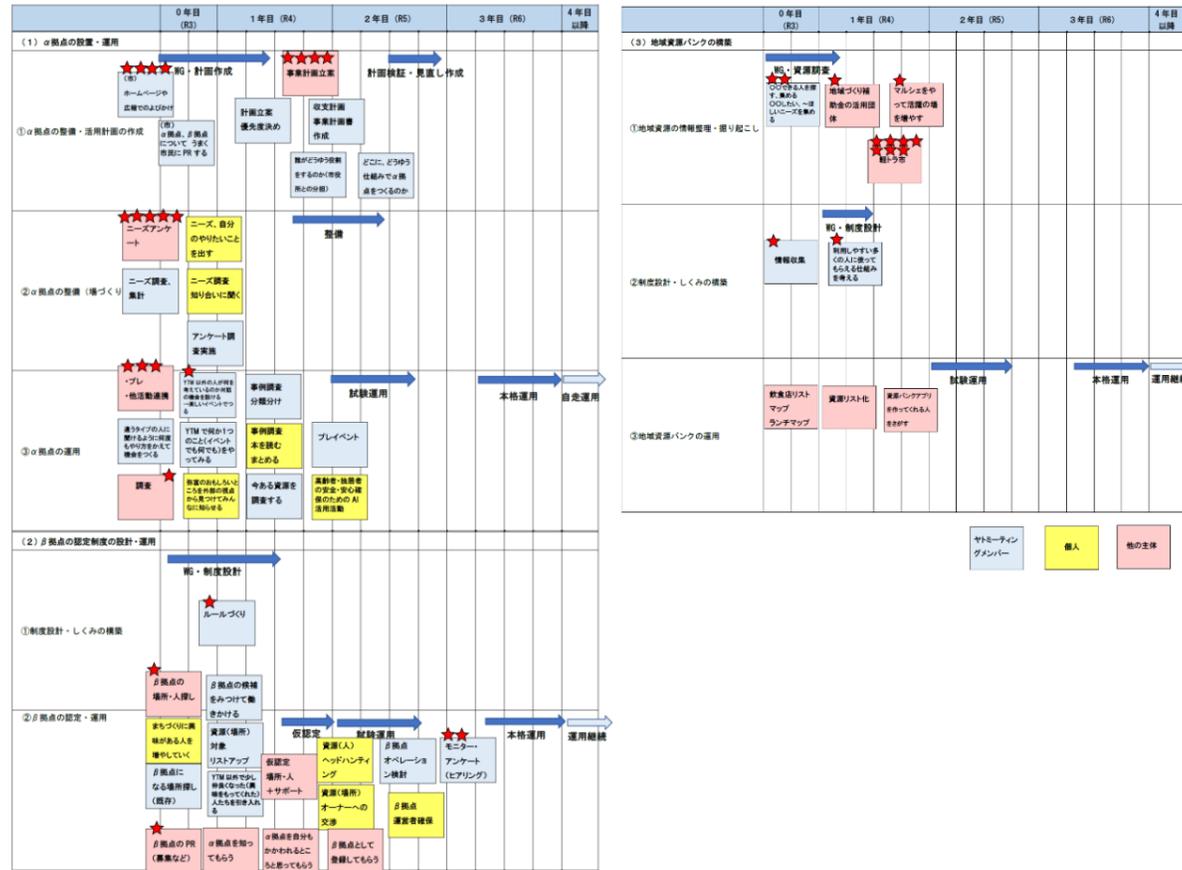


- α拠点の役割**
- ・市民活躍の場（イベントなどの開催）
  - ・α拠点のPR、情報発信
  - ・β拠点の認定・登録・管理
  - ・β拠点間の交流、情報共有の促進
  - ・β拠点の開設支援、β拠点活動のPR
  - ・資源バンクの構築（人的資源の情報可視化）
  - ・運営資金の確保

- β拠点の役割**
- ・個性や得意な分野を活かした活動
  - ・β拠点同士の連携した活動
  - ・資源バンクへの登録
  - ・α拠点への情報提供

<事業への関わり方の意見出し> (一部抜粋)

事業スケジュール(案)と具体的な取組内容のイメージ(Mグループ)



(次回に向けた課題)

- ・ YTM.Meeting がどこまでやるのか、活動しやすいように道筋を作り、市との具体的な役割分担をする必要がある
- ・ 次回で一旦の区切り。次回以降の動き出しを確認する必要がある

(会議の様子)



【第7回】2021年9月4日(土) 12時~15時 オンライン

(目的)

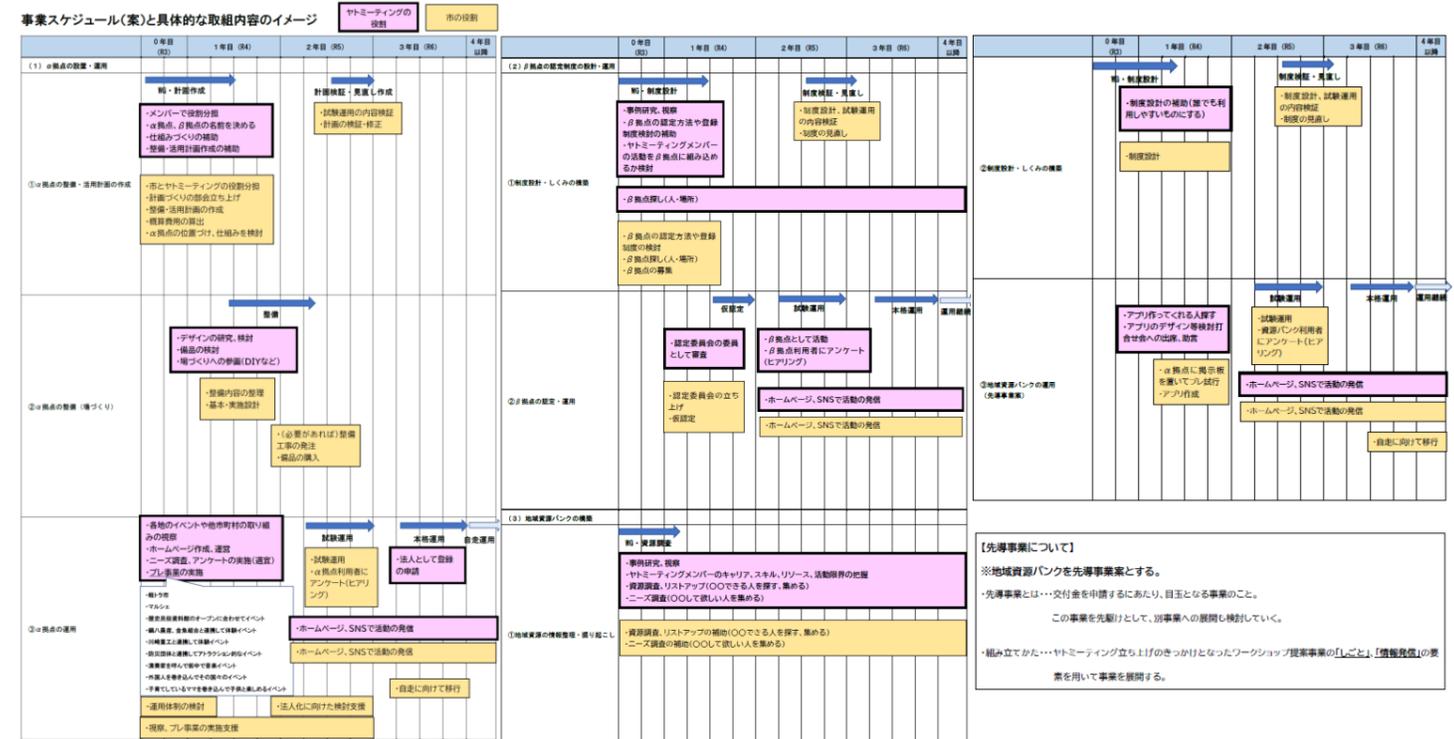
- ・ 最終的な事業及びスケジュール案と市と YTM.Meeting の役割分担を確認する
- ・ ①プレ事業、②資源バンク、③情報発信のセクションにおける次の動き出しを決める
- ・ 交付金を活用して行うことを整理する

(内容)

- ・ 事業内容とスケジュールは概ね問題なし
- ・ 決めることがたくさんあり、YTM.Meeting 内でも役割分担をし、全体ではなく少数で動き出す

<セクションごとの初動>

- ・ プレ事業：海南こどもの国秋まつりに出店する
- ・ 資源バンク：日本全国の地域資源バンクの事例を調べ、制度設計の参考にする
- ・ 情報発信：HP に関しては市 HP とのリンクの合意を取りながら YTM.Meeting の発信活動を始めていく



(今後の課題)

- ・ YTM.Meeting の組織をどういう位置づけにしているのか
- ・ 楽しく、負担が大きすぎないように活動していくことが大事
- ・ α拠点やβ拠点の認識の共有が必要 (誰が説明しても同じ説明ができるようにする)